

# JA自己改革推進レポート（JAグループ鳥取）5月号

令和5年5月24日  
JA鳥取県中央会

## 1. JA自己改革実践状況

### (1) JAグループ鳥取の取り組み

#### JAグループ鳥取と県が「星空舞」「きぬむすめ」特A取得 記念セレモニー

JAグループ鳥取と県は3月12日、鳥取市の地場産プラザ「わったいな」に隣接する「とりっこ広場」で、日本穀物検定協会の令和4年産米の食味ランキングで、県オリジナル品種「星空舞」と「きぬむすめ」が『特A』を取得したことを祝う記念セレモニーを開いた。「星空舞」は初、「きぬむすめ」は3年連続8回目の特A取得となった。県産米のブランド力強化や販路拡大につなげる。

JA鳥取県中央会の栗原隆政会長は、「星空舞」を本格生産して5年目で祈願の『特A』取得に、「県内3000畝を目指し、より一層の栽培技術の確立や品質の高位平準化、販路拡大を通じ農業者の取得向上に努める」と意気込んだ。平井伸治知事は「もっと食べて県内の米産地を応援してほしい」と呼びかけた。



### (2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

#### 「スゴいぞ！牛乳」ギネス世界記録挑戦イベントに参加

大山乳業農協は3月29日、『「スゴいぞ！牛乳」ギネス世界記録挑戦イベント』に参加し、「オンラインで同時に乾杯した最大人数」に挑戦した。

同イベントは、一般社団法人中央酪農会議が日本の酪農経営危機を業界全体で乗り越えるために企画されたもので、中央酪農会議のCMキャラクターを務めるお笑い芸人のミルクボーイをはじめとする全国の酪農関係者380人以上がオンライン上で集い、牛乳の同時乾杯を実施した。参加者は同時に乾杯と言い、器を上げて飲料を飲むことなどのルール通りに357人が成功し、ギネス世界新記録に認定され、乳業業界を元気づけるきっかけとなった。



### (3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

#### 飼料価格高騰対策として交雑牛の販売強化策を実施

鳥取県畜産農協は、4月15日に京都生協の4店舗にて、鳥取県畜産農協の職員が直接出向いて交雑牛の試食販売を実施した。5月と6月も同様に実施する。



組合員の酪農家においては、飼料価格の高騰により副産物収入の増加を目的として交雑牛や和牛の子牛の分娩頭数を増加させている。鳥畜においてもこの牛種変更に対応すべく、従来のホルスタインから交雑牛や和牛の肥育と販売を強化することとしている。

しかしながら、一般消費者においては交雑牛の意味や特徴等に対する理解が十分には浸透していない状況にあることから、直接説明することとした。今後も様々な機会やチャンネルを通じて交雑牛(鳥取F1牛)の魅力のアピールし、新たなブランドとして確立させる取り組みを展開していく。

### (4) JA全農とっどりの取り組み

#### ① 農畜産物の販売価格への転嫁について広く消費者の理解を求める新聞広告を掲載

JA全農とっどりは、消費者に対する米・園芸・畜産の生産コスト上昇分の価格転嫁理解情勢に関する広告を3月27日の日本海新聞に掲載した。

子どもがおにぎりをほおぼる姿をデザインした広告では、「私たちが食べて笑顔になるだけでなく、それを届けてくれる農家さんも笑顔でいてほしい。」とのメッセージを添えた。

広告は、全国的な課題となっている農畜産物の生産コスト上昇に対して、農畜産物の販売価格に転嫁できるよう、広く消費者・事業者へ現状への正しい認識と共感を促し、理解・容認する雰囲気醸成することを目的に、全国5大紙(読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞・産経新聞)、日本農業新聞及び各県本部主要地方紙にも掲載した。





## ② 鳥取県内で初めての国・県の事業を活用した「パイプハウス型簡易牛舎」が完成

J A全農とつとりは4月6日、三朝町にて「パイプハウス型簡易牛舎」の竣工式を行った。

当簡易牛舎は本会畜産部が実施している「繁殖牛生産基盤(簡易牛舎)推進事業」に基づき、国・県の補助事業を活用して3月31日に完成した。この事業による簡易牛舎の設置は県内初となり、和牛繁殖規模拡大に役立てていただく。



本事業は和牛繁殖規模拡大を検討している生産者に対し、和牛生産基盤の維持・拡大と生産コストの低減により経営安定につなげることを目的として始まった。生産者には5年間の繁殖雌牛の増頭計画を立てていただき、生産者・J A・全農の3者契約を結び、全農が簡易牛舎を取得して生産者へ貸し出すもので、生産者は7年かけて賃貸料を全農に支払い、支払完了となれば生産者へ譲渡することとしている。

設置したハウスは間口7.2㎡×長さ38mとなっており、20頭の繁殖雌牛の飼養が可能となっている。骨材は、通常の園芸ハウス用パイプと比べ太いパイプを使用しており丈夫な上、切妻屋根型タイプで雪が積もりにくい構造となっている。

今後も県内和牛生産者の和牛生産基盤の維持・拡大に向けて取り組みを強化していく。

## (5) J A鳥取信連の取り組み

### J Aの担い手コンサルティングの取組支援

J A鳥取信連は、第50回J A鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策として、J Aの担い手コンサルティングの取り組みを支援している。

令和4年度においては、J Aメイン強化先など合計4先(水稻2先、水稻・畑作1先、酪農1先)に対して担い手コンサルティングを実施しており、担い手の経営基盤の強化や関係構築を支援した。

担い手コンサルティングにおいては、財務分析および品目別分析を行い、担い手が持つ課題等を洗い出し、コンサルチーム(J A・信連・農林中央金庫・全農・外部コンサル等)がソリューションを提供する手法で対応している。担い手からは、経営数値の見える化等により経営意識が高まったなど、一定の評価を頂いている。

令和5年度以降も、J Aと連携し、担い手コンサルティングの取り組みおよび訪問活動を通じたニーズの把握や相談対応等により経営基盤の強化を支援していく。

## (6) J A 共済連鳥取の取り組み

### ① 鳥取湖陵高等学校への教育実習機材等の寄贈について

J A 共済連鳥取は4月18日、教育実習環境等の充実を目的とした「地域活性化・農業生産者の育成に貢献する取り組み」の一環として、鳥取県立鳥取湖陵高等学校へ教育実習機材・備品等の寄贈を行った。

寄贈式では、J A 共済連鳥取の影井運営委員会会長が「貴校が取り組むG A P 認証、H A C C P 認証、専門人材の育成に向け、後押しをしたい。将来の地域農業および地域活性化をリードする人材に育っていただきたい。」とあいさつした。

寄贈先の学生からは「まさにG A P の更新審査に向けて準備・学習を深めているところです。G A P の継続認証および地域への発信に役立てていきたいです。」と喜びの声をいただいた。

今後もJ A 共済では、地域の発展・農業振興に役立つような地域貢献活動を行っていく。

G A P (ギャップ) : 農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するため、それらの記録、点検、評価を繰り返し、生産工程の管理や改善を行う取り組み。

H A C C P (ハサップ) : 食品の製造工程における品質管理システム。



鳥取湖陵高等学校への寄贈式の様子(令和5年4月18日)

左から山西本部長、清水常務、影井会長、若林校長、食品システム科 上根さん、中野教頭、食品システム科 小林さん、林副校長

## ② 鳥取大学および公立鳥取環境大学への星空舞の寄贈について

J A 共済連鳥取では、J A のブランドイメージ向上や県産米の P R を図り、消費拡大に繋げるため、4 月 1 4 日に鳥取大学、4 月 1 9 日に公立鳥取環境大学へ最高ランクの『特 A』評価を取得した「星空舞」合計 1, 0 0 0 袋（1 袋 2 k g）を寄贈した。

寄贈先の学生からは「この度の『星空舞』の寄贈をありがたく感じています。特に食事は学業に邁進していくための大切なエネルギーだと考えています。様々なことを経験できるように、チャレンジしてまいります。」と喜びの声をいただいた。

今後も J A 共済では、地域の発展・農業振興に役立つような地域貢献活動を行っていく。



公立鳥取環境大学への寄贈式の様子（令和 5 年 4 月 1 4 日）

左から山西本部長、影井会長、佐藤学友会長、江崎学長、西山副理事長、小林副学長



鳥取大学への寄贈式の様子（令和 5 年 4 月 1 9 日）

左から山西本部長、影井会長、学生代表 武田さん・石井さん・伊地知さん・木原さん、中島学長、山口理事